

COMPAQ

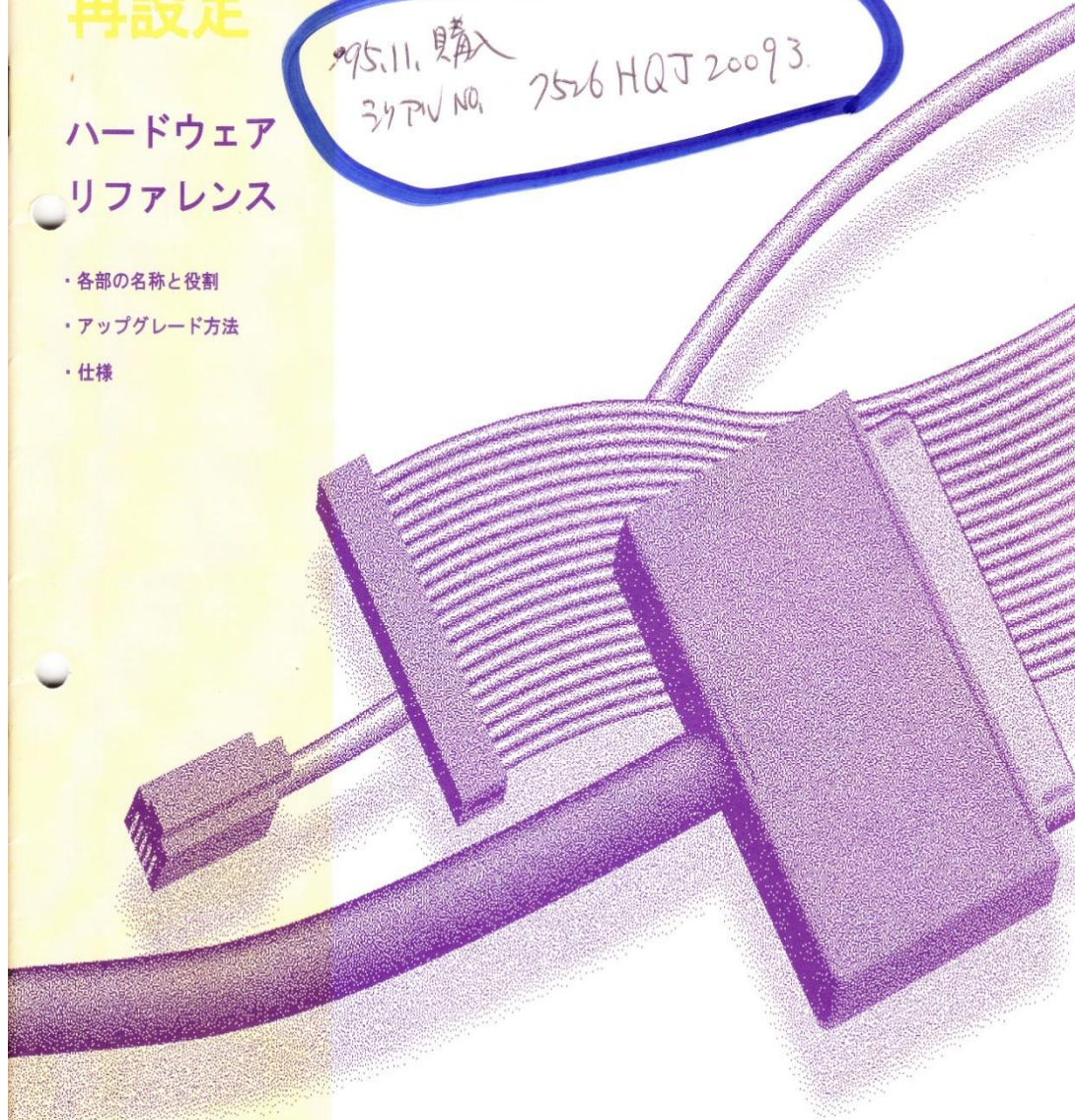
# コンピュータのアップグレードと再設定

②

95.11. 購入  
347PIV NO. 7526 HQJ 20093.

## ハードウェア リファレンス

- ・各部の名称と役割
- ・アップグレード方法
- ・仕様



## ヒント

## 目次

コンピュータの概要	4
ランプ	4
スイッチ	5
スピーカとマイク	6
リアパネルの各部	6
ドライブの位置	7
キーボード	8
マウス	10
コンピュータのアップグレード	11
インストールの手順	11
システムトレイの取り出し方	12
拡張ボードのインストール	14
アップグレード用プロセッサのインストール	15
メモリのインストール	18
リアルタイムクロック(RTC)用バッテリーのインストール	19
コンピュータの再設定	22
DIAGNOSTICS(診断)ユーティリティの使用	22
DIAGNOSTICS(診断)メニューの呼び出し	23
コンピュータのセットアップ(SETUP)	24
コンピュータの動作チェック(TEST)	24
システム情報の参照(INSPECT)	25
セキュリティ機能	26
CD-ROMについて	26
CD-ROMドライブの使用方法	27
CD-ROMドライブランプ	28
CDの取り出し方	29
CD-ROMトレイが出てこない場合	29
CD-ROMドライブとCDについての注意	30
CD-ROMドライブの仕様	30
CD-ROMドライブの接続	32
CD-ROMジャンパの設定	33

オーディオの仕様	33
MIDI/ゲームポート(ジョイスティック)	33
I/Oアドレス	33
割り込みライン	33
DMAチャンネル	34

TVチューナボード	35
位置	35
TV機能の使用法	36
ジャンパの設定	36
オーディオコネクタ	37
TVチューナボードのI/Oアドレス	37
VESA規格準拠のコネクタ	38

運搬するには	39
--------	----

静電気対策	40
アースの方法	40

ジャンパの設定	41
ジャンパの設定 - 486ベースシステムボード	41

仕様	42
Compaq Presario 500シリーズ 本体	42
ハードディスクドライブ	43
ディスクドライブ	44
マウス	44
マイク	45
スピーカ	45
インタフェース	46

パスワードを忘れてしまった場合	49
-----------------	----

## ヒント

## ヒント

## コンピュータの概要

ここでは、次のコンピュータの各部について説明します。

- ・ ランプ
- ・ スイッチ
- ・ スピーカとマイク
- ・ リアパネルの各部
- ・ ドライブの位置
- ・ キーボード
- ・ マウス

## ランプ

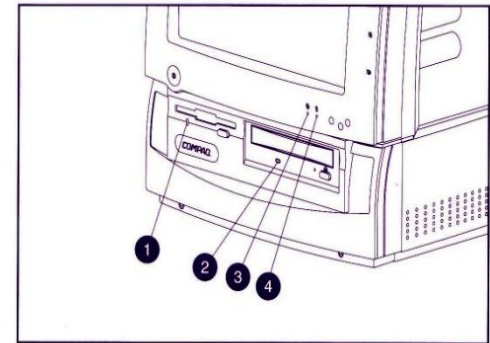
ディスクドライブランプ①が点灯しているときは、ディスクから情報を読み出しているか、または書き込んでいるかのどちらかです。

CD-ROMドライブランプ②が点灯しているときは、コンパクトディスクの音楽を演奏しているか、コンパクトディスクから情報などを読み出しています。

電源ランプ③が点灯しているときは、コンピュータの電源が入っていて、コンピュータが動作中であることを示しています。

ハードディスクドライブランプ④が点灯しているときは、ハードディスク(コンピュータに内蔵されているハードディスクドライブ)から情報を読み出しているか、または書き込んでいるかのどちらかです。

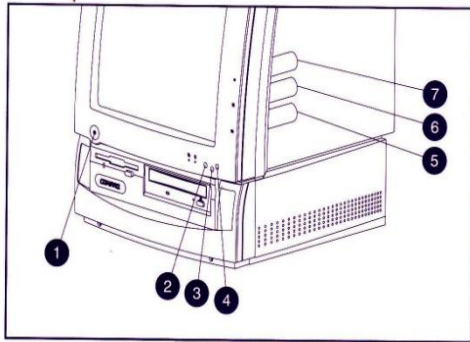
モデルによっては、コンピュータの電源を入れている間、常時ハードディスクドライブランプが点灯するものもあります。



コンピュータのランプ

## スイッチ

次の図は、Compaq Presario 500シリーズのスイッチを示しています。



コンピュータのスイッチ

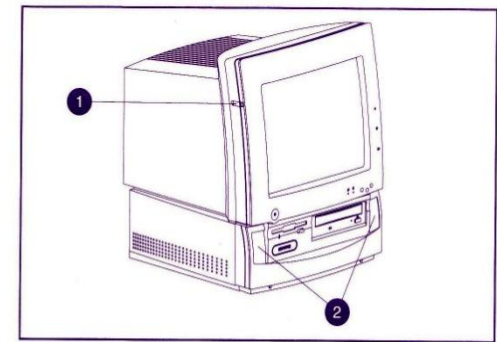
コンピュータのスイッチ	
番号	各部の名称
①	電源スイッチ
②	システム ミュート
③	スピーカ ボリューム ダウン
④	スピーカ ボリューム アップ
⑤	水平コントロール
⑥	輝度コントロール
⑦	コントラストコントロール

## ヒント

## ヒント

スピーカの音量は、コンピュータ前面のボリューム ボタン、またはインストール済みの CD Sound Systemソフトウェアのどちらからでも調節できます。CD Sound Systemソフトウェアでスライダコントロールを調節すると、マスタースライダの音量も調節されます。この調節は、コンピュータ前面のボリューム ボタンにも影響します。ボリューム ボタンで音量を調節する場合は、スライダの音量を小さく設定してください。

## スピーカとマイク



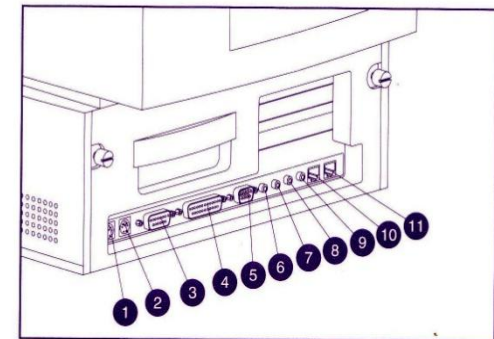
スピーカとマイク

### スピーカとマイクの位置

番号	各部の名称
①	マイク
②	スピーカ

## リア パネルの各部

次の図は、Compaq Presario 500シリーズのリア パネルの各部を示しています。



リア パネルの各部

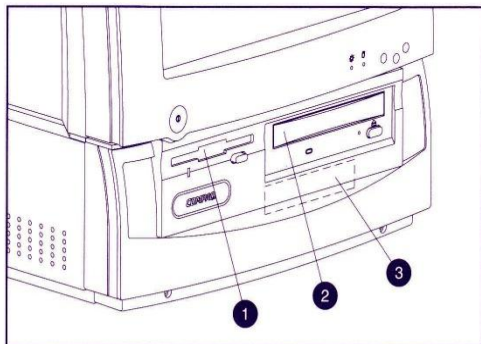
### リアパネルの各部

番号	コネクタ
①	キーボード
②	マウスまたはポインティングデバイス
③	MIDI/ゲームポート (ジョイスティック)
④	パラレルポート
⑤	シリアルポート
⑥	マイク
⑦	スピーカ/ヘッドフォン
⑧	ラインアウト
⑨	ラインイン
⑩	電話回線
⑪	電話機

### ドライブの位置

Compaq Presario 500シリーズには、次のドライブが搭載されています。

- ・ 3.5インチディスクドライブ①
- ・ CD-ROMドライブ②
- ・ 3.5インチハードディスクドライブ③



ディスクドライブ、CD-ROMドライブ、ハードディスクドライブの位置

### ヒント

リアパネルにはラベルが貼られています。このラベルにはコンピュータのシリアル番号が記載されています。

音楽CD、プログラムCDを楽しむには、コンピュータに付属の「CD-ROMの使い方」を参照してください。

### ヒント

キーボードを使って、情報やコマンドをコンピュータに入力することができます。

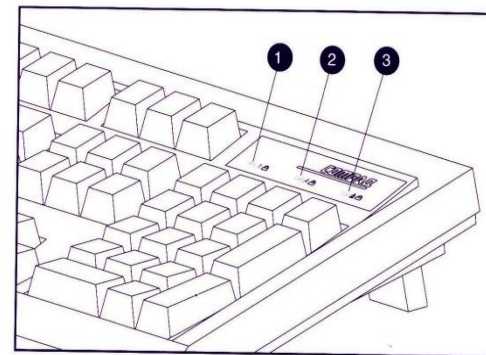
### キーボード

キーボードは大きく4つの領域に分けられます。

- ・ キーボードの最上段にあるファンクションキー([F1]~[F12])。それぞれのキーは、コンピュータに特定の処理を行うように指示します。プログラムマネージャやTabWorksでは、[F1]キーを押すとヘルプ情報が表示されます
- ・ メイン(タイプライタ)キーパッド
- ・ カーソルを移動するための上、下、左、右の矢印の付いたカーソルキー(カーソルは、キーボードから入力した文字が画面のどこに現れるかを示します)
- ・ テンキー(電卓型)

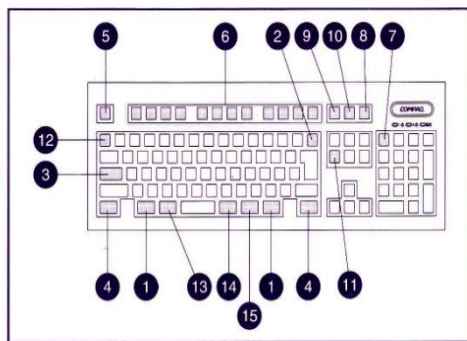
テンキーには、数字と編集の2つの動作モードがあります。Num Lockランプ①が点灯しているときは、数字入力モードです。テンキーを編集モードにするには、[Num Lock]キーを押して数字入力モードを解除します(ランプは消灯します)。

[Num Lock]キー①、[Caps Lock]キー②、[Scroll Lock]キー③の3つのキーは、特殊な機能を持っており、次の図のようにそれぞれに対応するランプがあります。



キーボードのランプ

キーボード上のいくつかのキーは特別な機能を持っており、その中のいくつかは、使用するアプリケーションによって機能が変わります。これらのキーの機能を次の表で簡単に説明します。



特殊機能キー

特殊機能キー		
番号	キー	機能
①	[Alt]	英字キーとの組み合わせで、Windowsアプリケーションではメニューを呼び出すことができます。日本語入力では、[Alt]キーと[半角/全角]キーとの組み合わせで、日本語入力機能のオン/オフを切り替えます。特殊文字を入力するときにも使用します
②	[Backspace]	カーソルの左側の文字を削除し、カーソルを左に移動します
③	[Caps Lock]	[Shift]キーを押しながらこのキーを押してCaps Lockランプを点灯させると、英文字を大文字でタイプできます
④	[Ctrl]	数字キー、英字キー、ファンクションキーなどとの組み合わせでアプリケーションのさまざまな機能を実行します
⑤	[Esc]	1つ前の画面に戻ったり、操作を取り消すことができます
⑥	[F1] - [F12]	システムソフトウェア、またはアプリケーションソフトウェアによって割り当てられた特定の機能を実行します

次ページへ続く

## ヒント

## ヒント

[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を使ってコンピュータを再起動させる場合は、Windowsを終了し、MS-DOSに戻ってから行うことをおすすめします。

マウス操作について詳しくは、コンピュータに付属の「クイックセットアップ」の「マウスの使い方をマスターする」を参照してください。

特殊機能キー (続き)		
番号	キー	機能
⑦	[Num Lock]	このキーを押してNum Lockランプを点灯させると、数字入力モードになり、テンキーから数字を入力できます。Num Lockランプが消えていると、テンキーはカーソルキーや編集キーとして使用できます
⑧	[Pause]	このキーを押すと、DOS上で画面のスクロールやその他の処理を一時的に止めることができます
⑨	[Print Scrn]	画面に表示されている部分をプリンタに出力します。ファイル全体をプリントすることはできません
⑩	[Scroll Lock]	このキーを押すとScroll Lockモードになります
⑪	[Delete]	カーソル上の文字を削除します。[Ctrl]キーと[Alt]キーを押しながら[Delete]キーを押すとコンピュータを再起動できます
⑫	半角/全角	全角文字と半角文字の切り替えを行います。[Alt]キーを押しながら[半角/全角]キーを押すと日本語入力機能のオン/オフを切り替えることができます
⑬	無変換	タイプしたかな文字を全角ひらがな/全角カタカナ/半角カタカナに変換したり、英数字を全角/半角に変換したりするときに使います
⑭	変換	タイプした文字を漢字などに変換するときに使います
⑮	カタカナひらがな	このキーを押すとひらがな入力モード、[Shift]キーを押しながらこのキーを押すとカタカナ入力モードになります

## マウス

Compaq Presario 500シリーズにはマウスが付属していますが、他のシリアルマウスやPS/2マウスも同じように使えます。マウスは、Windowsやその他のマウスを利用するアプリケーションで画面上のポインタ(またはカーソル)を操作するために使います。

マウスには次の5つの操作方法があります。

- ・ポイント
- ・クリック
- ・ダブルクリック
- ・プレス
- ・ドラッグ

マウスを利用する多くのアプリケーションは、これらの基本操作を採用しています。

## コンピュータのアップグレード

ここでは本体カバーの取り外しと、以下のアップグレード用オプションのインストールの方法を説明します。

- ・ 拡張ボード
- ・ アップグレード用プロセッサ
- ・ システム ボードの増設メモリ

また、新たにインストールした装置をコンピュータに認識させるコンフィギュレーションの操作についても説明します。

### インストールの手順

まず最初にインストールとコンフィギュレーションの手順を説明します。どのオプションをインストールする際にも、この手順どおりに行うことが大切です。

1. Windowsやその他のアプリケーションを終了し、ディスクやCDをドライブから取り出します。
2. コンピュータの電源が入っているときは電源を切り、電源コードを抜き取ります。
3. キーボードやプリンタなどすべての外部装置のケーブルを本体から抜き取ります。



**注意：**静電気の放電により、コンピュータやオプションの電子部品が破損することがあります。以下の手順を始める前に、アースされた金属面に触れて、身体にたまった静電気を放電してください。詳しくは、このガイドの「静電気対策」を参照してください。

4. 本体からシステムトレイを取り出します。詳しくは、「システムトレイの取り出し方」を参照してください。
5. オプション（拡張ボード、アップグレード用プロセッサ、メモリなど）をインストールします。詳しくは、この後の各オプションに対応した説明を参照してください。
6. システムトレイを取り付けてキーボードやプリンタなどすべての外部装置のケーブルを本体に接続し、電源コードをアースされたACコンセントに接続します。
7. コンピュータの電源を入れます。
8. [コンピュータのセットアップ(SETP)]ユーティリティ（ハードディスクにプリインストールされています）を実行して、コンピュータの設定を行います。詳しくは、このガイドの「コンピュータのセットアップ(SETP)」を参照してください。
9. [コンピュータの動作チェック(TEST)]ユーティリティを使ってコンピュータをテストします。詳しくは、このガイドの「コンピュータの動作チェック(TEST)」を参照してください。

### ヒント

### ヒント

オプションを取り付けた後は[コンピュータのセットアップ(SETP)]ユーティリティを実行して、コンピュータの設定を行います。詳しくは、このガイドの「コンピュータのセットアップ(SETP)」を参照してください。

ハードディスクドライブをアップグレードしたり、メモリを増設することができます。これらのオプションの購入については、コンパック販売特約店、またはコンパック正規保守サービス会社にご相談ください。

### システムトレイの取り出し方

拡張スロットにオプションをインストールする場合は、本体からシステムトレイを取り出します(拡張スロットとは、拡張ボードまたは拡張カードと呼ばれる電子回路の基板を取り付けるように設計された場所です。拡張ボードはコンピュータの性能を向上させたり、新しい機能を追加したりするものです)。



**注意：**システムトレイを取り出す前に必ずコンピュータの電源を切り、電源コードのプラグを抜き取ってください。

以下の手順でシステムトレイを取り出します。

1. コンピュータと外部装置の電源を切ります。
2. 電源コードをACコンセントから抜き、コンピュータに接続されている外部装置をすべて取り外します。

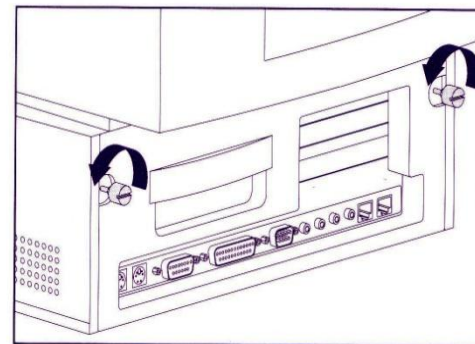


**警告：**感電や火事、機器の損傷を防ぐために、必ずファックス/モデム用モジュラーコードのプラグは本体背面の電話回線モジュラーコネクタから外してください。



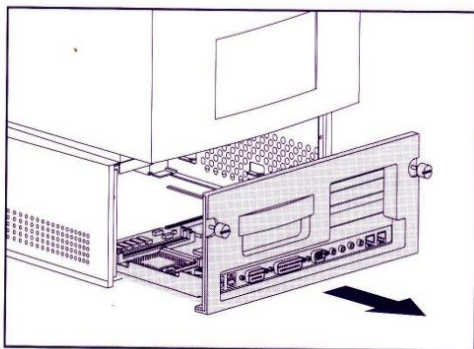
**警告：**火傷の危険があるので、システムトレイを取り出す前に、十分温度が下がっていることを確認してください。

3. リアパネルの2本のネジをゆるめます。

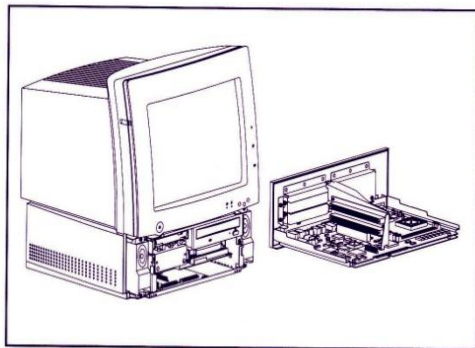


ネジをゆるめる

4. コンピュータからシステムトレイを引き出します。



システムトレイを引き出す



コンピュータ内部

**注意：**静電気の放電により、コンピュータやオプションの電子部品が破損することがあります。以下の手順を始める前にアースされた金属面に触れて、身体にたまった静電気を放電してください。

## ヒント

静電気の対策については、このガイドの「静電気対策」を参照してください。

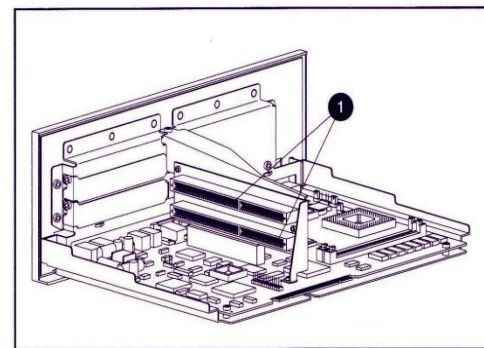
## ヒント

コンフィギュレーションラベル(システムトレイの底にあります)には、拡張スロットやジャンパの設定についての情報が記載されています。

次は、拡張ボードやアップグレード用プロセッサ、増設メモリのインストールの方法を説明します。

### 拡張ボードのインストール

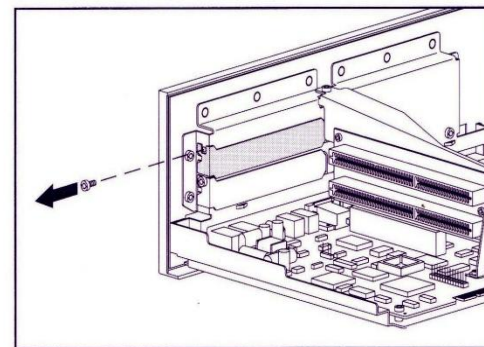
コンピュータにはフルサイズの2/3(約22cm)の拡張スロット①が2組装備されています。これらのスロットには、フルサイズの2/3(約22cm)以下のISA(Industry-Standard Architecture)ボードを差し込むことができます。



拡張スロット

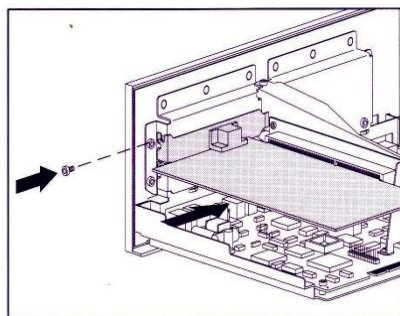
以下の手順で拡張ボードをインストールします。

1. コンピュータからシステムトレイを取り出します(「システムトレイの取り出し方」を参照してください)。
2. 新しいオプションをインストールするスロットを確認します。
3. トルクスドライバまたはマイナスドライバを使って拡張スロットカバーのネジを外し、コンピュータから拡張スロットカバーを取り外します。



拡張スロットカバーの取り外し

4. ボードを拡張スロットに静かに挿入し、奥までしっかりと差し込みます。
5. ネジを取り付けます。



拡張ボードのスロットへの挿入とネジの取り付け

6. 取り外しと逆の手順でコンピュータを組み立てます。取り外した外部装置をすべて接続し、アースされたACコンセントに電源コードを接続します。
7. コンピュータの電源を入れます。
8. [コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティ (ハードディスクにプリインストールされています) を実行して、コンピュータの設定を行います。詳しくは、このガイドの「コンピュータのセットアップ(SETUP)」を参照してください。
9. [コンピュータの動作チェック(TEST)]ユーティリティを使ってコンピュータをテストします。詳しくは、このガイドの「コンピュータの動作チェック(TEST)」を参照してください。

### アップグレード用プロセッサのインストール

プロセッサ(CPU)を性能の高いものに交換することによって、コンピュータをアップグレードすることができます。

コンピュータのジャンパはシステムトレイの下部にあります。ジャンパの設定を変更する場合は、トレイの底にあるコンフィギュレーションラベルを参照してください。

**注:**簡単に設定が行えるように、ジャンパ(P1とP2)はシステムボード上に明記されています。ピンの割り当てについて詳しくは、このガイドの「ジャンパの設定」を参照してください。

ヒント

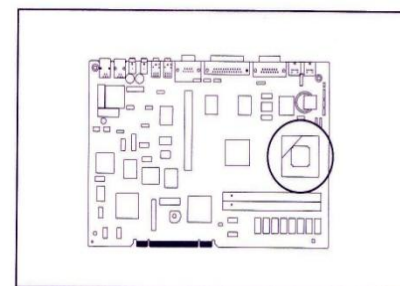
ヒント



**注意:**アップグレード用プロセッサのインストール方法を間違えると、システムボードを損傷することがあります。アップグレード用プロセッサを自分でインストールする場合は、すべての説明を注意深く読んでから作業してください。

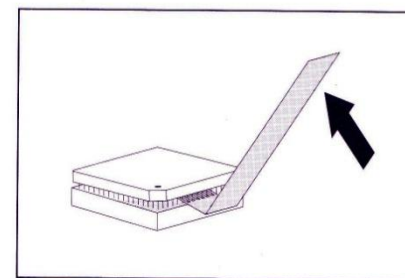
以下の手順でアップグレード用プロセッサをインストールします。

1. コンピュータからシステムトレイを取り出します(「システムトレイの取り出し方」を参照してください)。
2. システムボード上のプロセッサソケットを確認します(プロセッサソケットは、お買い求めのアップグレード用プロセッサと同じサイズです)。



アップグレード用プロセッサのインストール

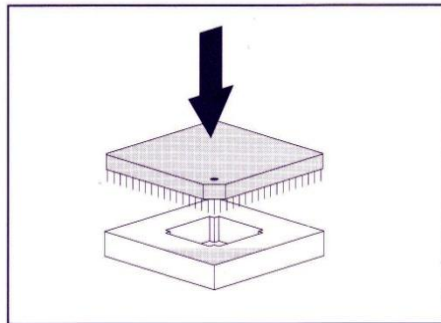
3. すでにシステムボード上のプロセッサソケットにプロセッサがインストールされている場合は、取り外してください。
4. プロセッサ取り外し工具の先をプロセッサとソケットの間に差し込み、工具のアーム部分を押し上げてピンをゆるめます。ソケットの反対側に工具を移してプロセッサの逆側をゆるめます。一方だけをゆるめようとすると、プロセッサのピンが曲がってしまうので注意してください。プロセッサが外れかけたら、静かに上に引き抜きます。



ソケットからプロセッサを取り外す



- 新しいアップグレード用プロセッサの角のピンをプロセッサソケットの角のピンの位置に合わせます。
- アップグレード用プロセッサの中央から、均等に適正な力を加え、しっかりとソケットに差し込みます。ピンに無理な力が加わらないように気を付けてください。



プロセッサを差し込む

**重要:** プロセッサとプロセッサソケットの間には、若干の隙間が開きます。隙間をなくそうと、無理にプロセッサを押し込まないでください。

**重要:** コンピュータの内部にあるコンフィギュレーションラベルと、このガイドの「ジャンパの設定」を参照し、必要があればジャンパの設定を変更してください。

- 取り外しと逆の手順でコンピュータを組み立てます。取り外した外部装置をすべて接続し、アースされたACコンセントに電源コードを接続します。
- [コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティ (ハードディスクにプリインストールされています) を実行して、コンピュータの設定を行います。詳しくは、このガイドの「コンピュータのセットアップ(SETUP)」を参照してください。
- [コンピュータの動作チェック(TEST)]ユーティリティを使ってコンピュータをテストします。詳しくは、このガイドの「コンピュータの動作チェック(TEST)」を参照してください。

次の表は、アップグレード可能なプロセッサです。

アップグレード用プロセッサ	
Compaq Presario 500シリーズ	オーバードライブ プロセッサ対応

## ヒント

コンピュータの設定を行うことで、新しくインストールした部品が認識され、システムのコンフィギュレーションが自動的に更新されます。

## ヒント

コンピュータは標準で8MBのメモリを搭載しています。このメモリは64MBまで拡張することができます。

## メモリのインストール

システムボード(コンピュータの回路基板。メインロジックボードまたはマザーボードとも呼ばれます)に直接メモリを追加することによって、メモリを拡張することができます。標準規格の1MB、2MB、4MB、8MB、16MB、32MBのSIMM(Single In-line Memory Modules)を追加することにより、最大で64MBまで拡張できます。

**注:** 32MBのSIMMを2つインストールすると、システムボード上に搭載されている4MBのメモリは使用できなくなります。

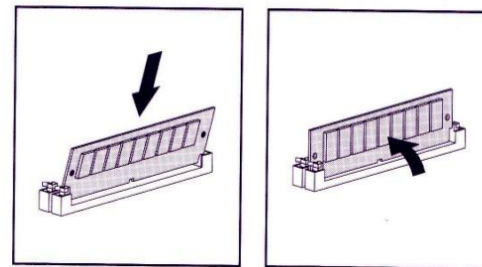


**注意:** 静電気の放電により、コンピュータやオプションの電子部品が破損することがあります。以下の手順を始める前に、アースされた金属面に触れて、身体にたまった静電気を放電してください。詳しくは、このガイドの「静電気対策」を参照してください。

以下の手順でメモリをインストールします。

**注:** メモリモジュールは、コンピュータの前から見て右側のソケットからインストールすると作業が簡単に行えます。

- メモリモジュールは1方向にのみインストールできます。モジュール上の切り込みをメモリソケットの突起に合わせて、モジュールをソケットに差し込み、奥まで入れて正しくはめ込みます。



メモリモジュールのインストール

- メモリモジュールとソケットのつめがパチッと噛み合うまで、ゆっくりと引き起こします。
- システムトレイをコンピュータに戻し、ネジを取り付けます。
- 取り外した外部装置をすべて接続し、アースされたACコンセントに電源コードを接続します。
- [コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティ (ハードディスクにプリインストールされています) を実行して、コンピュータの設定を行います。詳しくは、このガイドの「コンピュータのセットアップ(SETUP)」を参照してください。

6. [コンピュータの動作チェック(TEST)]ユーティリティを使ってコンピュータをテストします。詳しくは、このガイドの「コンピュータの動作チェック(TEST)」を参照してください。

### リアルタイムクロック(RTC)用バッテリーのインストール

システムボード上のリアルタイムクロック(RTC)用バッテリーが消耗すると、日付や時刻が正しく表示されなくなります。この場合は、交換用バッテリーを取り付ける必要があります。バッテリーの寿命は通常の使用で8~10年です。コンパクの交換用バッテリー(製品番号160274-001)を使ってください。

**重要:** 新しいバッテリーをインストールする前に[DIAGNOSTICS (診断)]ユーティリティをバックアップしてください。

**重要:** コンパク社製以外のハードディスクドライブをお使いの場合は、バッテリーをインストールする前に、次の操作を行ってください。

1. コンピュータを再起動し、カーソルが画面の右上隅に移動したらすぐに[F10]キーを押します。[DIAGNOSTICS (診断)]メニューから[コンピュータのセットアップ(SETUP)]を選択します。[記憶装置]を選び、ドライブタイプを確認します。
2. ドライブタイプが65または66の場合は、バッテリーをインストールする前にドライブパラメータをメモしておく必要があります。ドライブパラメータを参照するには、[ハードディスクドライブの設定]を選択します。[ハードディスクドライブ情報]ボックスの数値がドライブパラメータです。作業を始める前に、このパラメータを必ずメモしておいてください。
3. バッテリーのインストールが終わったら、[コンピュータのセットアップ(SETUP)]を起動し、手順2でメモしたドライブパラメータを再設定する必要があります。

### ヒント

[DIAGNOSTICS (診断)]ユーティリティをバックアップする方法は、オンラインマニュアルの「コンピュータについて」を参照してください。

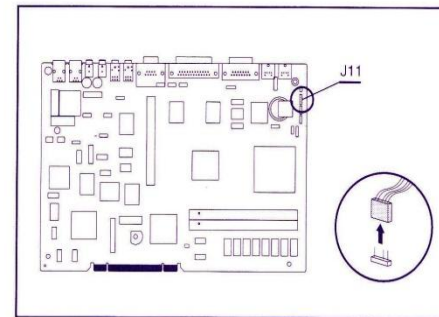
[コンピュータについて]は、TabWorksの[Compaqユーティリティ]タブ、あるいは[Compaqウェルカムセンター]か[Compaqリファレンスセンター]から起動できます。

### ヒント

以下の手順でバッテリーをインストールします。

**重要:** 最初にインストールされていた古いバッテリーは取り外さないでください。

1. コネクタJ11にバッテリーを接続します。

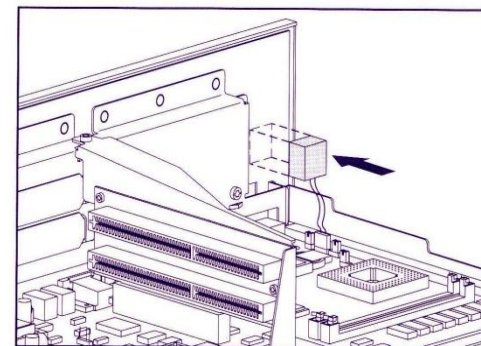


コネクタJ11にバッテリーを接続

2. マジックテープの裏貼りははがし、次の図に示すようにシステムトレイの前面パネル部にバッテリーを貼り付けます。



**注意:** プロセッサへの通気が妨げられない位置にバッテリーを貼り付けてください。



バッテリーのインストール

3. システムトレイをコンピュータに戻し、ネジを取り付けます。
4. バッテリーに付属の淡い青色のステッカーを本体背面の電源コネクタの上に貼り付けます。
5. コンピュータを組み立てて、取り外した外部装置をすべて接続し、アースされたACコンセントに電源コードを接続します。
6. コンピュータの電源を入れます。
7. コンパック社製のハードディスクドライブをご使用の場合は、画面に英語のメッセージが表示されたら[F1]キーを押します。

コンパック社製以外のハードディスクドライブをご使用の場合は、以下の手順を行ってください。

- (1) 画面に英語のメッセージが表示されたら「DIAGNOSTICS (診断)」ディスクをディスクドライブに挿入します。
- (2) [F1]キーを押して、[DIAGNOSTICS (診断)]ユーティリティを起動します。
- (3) [DIAGNOSTICS (診断)]メニューから[コンピュータのセットアップ (SETUP)]を選択します。
- (4) [記憶装置]を選択し、[ハードディスクドライブの設定]を選択します。
- (5) ここで[ハードディスクドライブ情報]ボックスに、ハードディスクのドライブパラメータを入力します。
- (6) 設定を保存してユーティリティを終了します。

**重要:** バッテリーの交換などでCMOS(メモリの一種)の内容が無効になった場合は、ユーザ指定のドライブタイプに対して、手動でドライブパラメータを設定しなおす必要があります。

## ヒント

### カスタムドライブの設定方法:

[コンピュータのセットアップ (SETUP)]では自動的にドライブタイプが65か66かを選択します。

ドライブパラメータを設定するには、上下のカーソルキーで変更したいパラメータを選択して数値を入力します。

## ヒント

### コンピュータの再設定

コンピュータの設定(または再設定)とは、コンピュータを構成する装置とプログラムを指定することです。オプションの装置を追加したり取り外したりした場合は、システムが構成の変更を認識するように、再設定を行う必要があります。たとえば、コンピュータにメモリモジュールを追加した場合は、[コンピュータのセットアップ (SETUP)]ユーティリティを実行して、コンピュータが新しいボードを認識するように設定する必要があります。

通常、システムは自動的に構成の変更を認識します。新たに装置を追加した後、コンピュータの電源を入れると、システムは変更した内容を表示して確認を求めているか、または、[コンピュータのセットアップ (SETUP)]ユーティリティを実行するように求めています。[コンピュータの動作チェック (TEST)]ユーティリティを実行して、コンフィギュレーションをテストすることもできます。詳しくは、次の「DIAGNOSTICS (診断)ユーティリティの使用」を参照してください。

### DIAGNOSTICS (診断)ユーティリティの使用

ここでは、コンピュータにプリインストールされている[DIAGNOSTICS (診断)]ユーティリティの使い方について説明します。

**重要:** [DIAGNOSTICS (診断)]ユーティリティは、ディスクにバックアップをとり、安全な場所に保管しておいてください。バックアップをとるには2枚のディスクが必要となります。「DIAGNOSTICS (診断)」ディスクを作成するには、[DIAGNOSTICS (診断)]メニューから[DIAGNOSTICS (診断)ディスクの作成]を選択します。詳しくは、このガイドの「DIAGNOSTICS (診断)メニューの呼び出し」を参照してください。

このユーティリティは、ハードディスクの特別なパーティションにプリインストールされていて、コンピュータの設定を行うことができます。ユーティリティを実行するには、コンピュータを再起動し、電源投入時のセルフテスト (POST) 終了後カーソルが画面の右上隅に移動したらすぐに[F10]キーを押します。詳しくは、このガイドの「DIAGNOSTICS (診断)メニューの呼び出し」を参照してください。

[DIAGNOSTICS (診断)]メニューで[コンピュータの動作チェック (TEST)]を選択することによってコンピュータの診断を行います。このメニューを呼び出すには、コンピュータを再起動し、電源投入時のセルフテスト (POST) 終了後カーソルが画面の右上隅に移動したらすぐに[F10]キーを押します。

**重要:** オペレーティングシステムとしてUNIXをインストールする場合は、必ず「DIAGNOSTICS (診断)」ディスクを作成してください。UNIXはハードディスク上のすべてのパーティションを削除するので、[DIAGNOSTICS (診断)]ユーティリティも削除されてしまいます。このため、システムの設定を行うには「DIAGNOSTICS (診断)」ディスクが必要となります。MS-DOSとWindowsの両方に[DIAGNOSTICS (診断)]ユーティリティがあり、次のような場合に使用します。

- ・ コンピュータを再起動する度に実行される電源投入時のセルフテスト(POST)で、システム コンフィギュレーションのエラーが検出されたとき。
- ・ コンピュータの機能を工場出荷時の設定から変更するとき。
- ・ システムの構成を変更したとき (オプションのハードウェアを追加したり、取り外した場合などに必要となります)。
- ・ システム コンフィギュレーションの設定を変更するとき。

## DIAGNOSTICS(診断)メニューの呼び出し

以下の手順で[DIAGNOSTICS (診断)]メニューを呼び出すことができます。

1. コンピュータの電源を入れるか、再起動します。
2. カーソルが画面の右上隅に移動したらすぐに[F10]キーを押します。

**重要:**カーソルが画面の右上隅に表示されているのは、約2秒間です。この間に[F10]キーが押せなかった場合は、コンピュータの再起動からもう一度やりなおしてください。

**注:**実際に画面に表示されるメニューは、コンピュータの構成により若干異なります。

次の表にコンピュータの画面に表示される情報の例を示します。

DIAGNOSTICS (診断)
コンピュータのセットアップ(SETUP)
セキュリティ機能
省電力機能
コンピュータの動作チェック(TEST)
システム情報の参照(INSPECT)
「DIAGNOSTICS (診断)」 ディスケットの作成(C)
診断パーティションの管理
ユーティリティの終了

## ヒント

## ヒント

## コンピュータのセットアップ(SETUP)

[コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティを使うと、ハードウェア構成の一覧やトラブルシューティングの参考となる情報を取得したり、コンピュータの設定を行ったりできます。[コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティは、自動的に内蔵または外付けの周辺装置を認識し、自動的にコンフィギュレーションを更新します。

次のような場合は、[コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティを使って設定を行ってください。

- ・ ビデオ、プロセッサ、メモリ、オーディオ、外部記憶装置、通信、入力装置などの設定を変更する場合
- ・ コンピュータの構成の一覧を表示させる場合
- ・ 発生した問題を解決するために、パラメータの設定を確認する場合

## コンピュータの動作チェック(TEST)

[コンピュータの動作チェック(TEST)]ユーティリティは、コンピュータの装置がシステムによって認識され、正しく動作しているかをテストします。新たに装置をインストールしたり接続したときは、このユーティリティを実行することをおすすめします。

テストの結果は、画面に表示するだけでなく、プリンタに出力したり、データとして保存することもできます。ハードウェアのトラブルなどについて、コンパック正規保守サービス会社やプレサリオサポートセンターにお問い合わせの際には、このユーティリティによって参照できるすべての情報をお知らせください。

プレサリオサポートセンターにお問い合わせる前に、[コンピュータの動作チェック(TEST)]ユーティリティを実行して、結果を印刷しておくことをおすすめします。

[コンピュータの動作チェック(TEST)]ユーティリティは、以下の手順で実行します。

1. 動作チェックを行いたい外部装置の電源を入れます。エラーの内容をプリンタで印刷するときは、プリンタを接続しておきます。
2. コンピュータを再起動します。
3. カーソルが画面の右上隅に移動したらすぐに[F10]キーを押します。
4. [DIAGNOSTICS (診断)]メニューから[コンピュータの動作チェック(TEST)]を選択します。  
[テストオプション選択]メニューが表示されます。
5. [デバイス一覧の参照]を選択します。  
インストールされているすべての装置の一覧が表示されます。
6. インストールされている装置がすべて表示されているか確認してください。

**注:**このユーティリティは、コンパック社製のハードウェア以外は認識しません。

[コンピュータの動作チェック(TEST)]ユーティリティを実行中にエラーが表示された場合は、そのエラーコードを記録しておいてください。コンパック正規保守サービス会社やプレサリオサポートセンターにお問い合わせる際に利用します。

またその際、コンピュータのリアパネルにあるシリアル番号も記録しておいてください。

・ 一覧表示が正しければ[OK]を選択して手順7に進んでください。再び[テストオプション選択]メニューが表示されます。

・ 一覧表示が正しくなければ、追加した装置が正しく接続されているか確認してください。正しく接続されている場合には、コンパック販売特約店、またはコンパック正規保守サービス会社までお問い合わせください。

7. [テストオプション選択]メニューから、次のどれかを選んでください。

・ クイック診断テスト - システムを構成している各装置をすばやくテストします。システム全般を簡単にテストでき、エラーが発生すると、テスト終了時点でエラーコードなどのエラー情報が表示されます。

・ 自動診断テスト - 各装置の詳細テストを自動的に実行します。テストの繰り返し回数やエラー発生時のテストの停止/続行、エラーメッセージなどをプリンタに出力したりファイルに保存するかなどを指定できます。

・ 対話型診断テスト - テスト方法について最大限の制御が可能なテストです。自動実行やテストの繰り返し回数、エラー発生時のテストの停止/続行、エラーメッセージなどをプリンタに出力したりファイルに保存するかなどを指定できます。

8. 画面の指示に従って操作し、装置のテストを進めます。

テストが完了すると、再び[テストオプションの選択]メニューが表示されます。

9. [診断テストを終了]を選択して、[コンピュータの動作チェック(TEST)]を終了します。[DIAGNOSTICS (診断)]メニューに戻ります。

## システム情報の参照(INSPECT)

[システム情報の参照(INSPECT)]ユーティリティでは、製品名やシリアル番号などのほか、以下のような情報を参照することができます。

注：このプログラムはMS-DOS上で動作します。

- ・ オペレーティングシステム起動ファイルの内容
- ・ メモリのコンフィギュレーション
- ・ ROMのレビジョン
- ・ プロセッサの種類
- ・ ディスケットドライブとハードディスクドライブの種類
- ・ LPTポートとCOMポート
- ・ モデム
- ・ コンピュータのシステム識別番号(シリアル番号)

これらの情報は、画面に表示するだけでなく、プリンタに出力したり、データとして保存することもできます。コンパック正規保守サービス会社やプレサリオサポートセンターがシステムの問題を解析するために、このユーティリティの実行結果をお尋ねすることがあります。この情報によって、サービス会社やプレサリオサポートセンターで他のコンピュータ上に同じ環境を再現し、テストを行うことができます。

## ヒント

コンパック正規保守サービス会社やプレサリオサポートセンターにお尋ねになる前に、[システム情報の参照(INSPECT)]ユーティリティを起動させ、その結果を印刷しておいてください。

## ヒント

インストール済みのソフトウェアについて、詳しくはコンピュータに付属の「CD-ROMの使い方」を参照してください。

## セキュリティ機能

コンピュータと保存してある情報を守るために、各種セキュリティ機能が搭載されています。セキュリティ機能ユーティリティを実行して、コンピュータに搭載されているセキュリティ機能を使用できます。

セキュリティ機能		
機能	目的	使用するユーティリティ
ディスク制御	ディスクからの起動を禁止する	[セキュリティ機能]
ディスクドライブ制御	ディスクドライブの使用を禁止する	[セキュリティ機能]
シリアルポート制御	シリアルポートによるデータ転送を禁止する	[セキュリティ機能]
パラレルポート制御	パラレルポートによるデータ転送を禁止する	[セキュリティ機能]
電源投入時パスワード	パスワードを入力するまで、コンピュータの使用を禁止する	[セキュリティ機能]とジャンパP5が経過すると、パスワードがクリアされる
セットアップパスワード	コンフィギュレーションの変更を禁止にする	[コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティ

## CD-ROMについて

ここでは、Compaq Presario 500シリーズに搭載されているCD-ROMドライブとオーディオコンポーネントについて説明します。

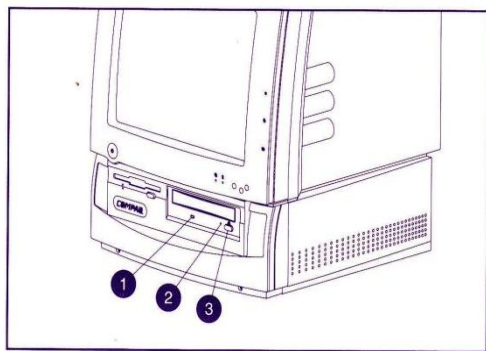
CD-ROMドライブは、すでに本体に組み込まれています。CD-ROMドライブを使用するために必要なソフトウェアは、ハードディスクにすでにインストールされ、すぐに使用できるように設定されています。

本体には次の装置が搭載されています。

- ・ CD-ROMドライブ
- ・ スピーカ
- ・ マイク

次の図に、CD-ROMドライブのフロントパネルの各部の名称を示します。

- ① CD-ROMドライブランプ
- ② 非常用取り出しホール
- ③ 取り出しボタン



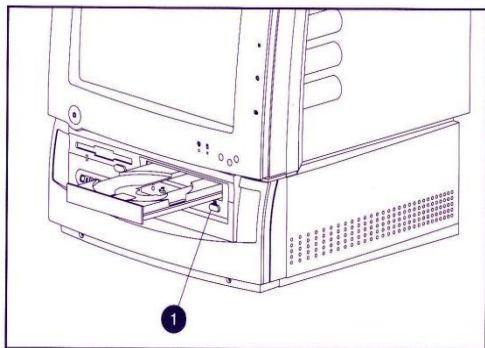
CD-ROMドライブのフロントパネル

### CD-ROMドライブの使用方法

CD-ROMドライブは、Dドライブとしてあらかじめ設定されていますので、すぐに使用できます。

CD-ROMドライブのCD-ROMトレイは、CD-ROMドライブの前面の[取り出し]ボタンを押すことで出し入れできます。

1. 本体の電源を入れ、CD-ROMドライブを使用できる状態にします。
2. CD-ROMドライブの前面にある[取り出し]ボタン①を押します。CD-ROMトレイがドライブの外側に出ってきます。



CD-ROMトレイを開ける

3. 使用するコンパクト ディスク(CD)をケースから取り出します。CDを持つときはCDの中央の穴と縁を持つように注意してください。

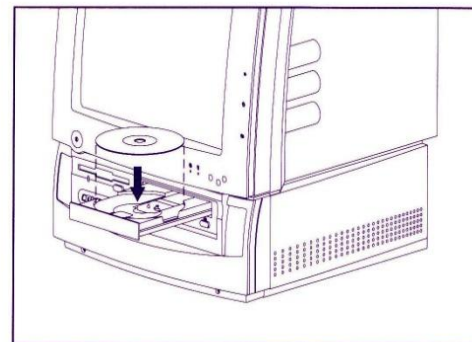
### ヒント

インストール済みのソフトウェアを使用して、CD-ROMトレイを出し入れすることができます。

CD-ROMトレイにはディスクを押さえるタブが付いています。これはCD-ROMドライブを立て置きにして使うときにCDを押さえるために使用します。このコンピュータでは使用する必要がないので、このタブが伸びていないことを確認した後、CDをセットしてください。

### ヒント

4. ラベルがプリントされている面を上にして、CDをCD-ROMトレイにセットします。CDはガイドの下にセットし、中央の穴がトレイの中心にくるようにします。



CDのセット

5. [取り出し]ボタンを押すか、CD-ROMトレイの前面を軽く押して、トレイをドライブの中に戻します。

**注:** CDを裏返しにセットした場合やCDがCD-ROMトレイに正しくセットされていない場合、また、何かの理由でCDを読めない場合などには、CD-ROMドライブランプは点灯しません。また、アプリケーションソフトウェアやオペレーティングシステムによっては、CDの使用中にあやまってCDに損傷を与えないように、[取り出し]ボタンを無効にしている場合があります。CDがコンピュータ内に入ったまま取り出せない場合は、この後の「CD-ROMトレイが出てこない場合」を参照してください。

### CD-ROMドライブランプ

CD-ROMドライブランプによってCD-ROMドライブの動作状況を知ることができます。

CD-ROMドライブランプ	
ランプ	状況
消灯	ドライブにCDがセットされていないか、またはCD-ROMドライブがデータを読み出していない
オレンジ色	データを転送中、または音声を再生中
電源投入直後のオレンジ色	診断プログラムを実行中、またはCDの目次を読み込み中

プログラムCDを使用するには、CDに含まれている情報の一部をハードディスクにインストールする必要があります。この作業を「CDの登録」といいます。詳しくは、コンピュータに付属の「CD-ROMの使い方」を参照してください。

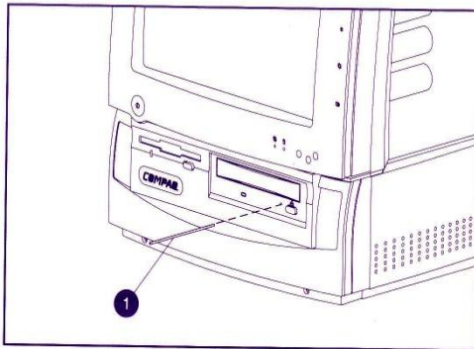
## CDの取り出し方

1. [取り出し]ボタンを押してCD-ROMトレイを引き出します(アプリケーションソフトウェアからの操作でCD-ROMトレイを引き出すこともできます)。
2. CD-ROMトレイからCDを取り出します。
3. [取り出し]ボタンを押して、CD-ROMトレイをドライブに戻します。

## CD-ROMトレイが出てこない場合

[取り出し]ボタンを押してもCD-ROMトレイが出てこない場合は、次の手順でCD-ROMトレイを引き出してCDを取り出すことができます。

1. 本体の電源を切ります。
2. 取り出し方は、搭載されているCD-ROMドライブにより異なります。
  - 非常用取り出しホールが図のように円形で[取り出し]ボタンの左側にある場合  
金属の棒①(直径最大1.2mmまで、長さが少なくとも35mm以上あるもの)などを非常用取り出しホールに挿入し、押します。クリップをまっすぐにのばしたものをすることもできます。CD-ROMトレイが6~12mm程度引き出されます。
  - 非常用取り出しホールが半円形でトレイの真下にある場合  
精密機器用の細いマイナスドライバーなどを取り出しホールに挿入し反時計まわりに回します。



CD-ROMトレイが出てこない場合のCDの取り出し

3. CD-ROMトレイをゆっくりとドライブから引き出し、トレイが完全に出てからCDを取り出します。
4. トレイの前面をゆっくりと、軽く押し閉じます。

## ヒント

## ヒント

音楽CD、プログラムCDの操作方法については、コンピュータに付属の「CD-ROMの使い方」を参照してください。

## CD-ROMドライブとCDについての注意

- ・ 湿度が高い場所、高温な場所、振動がある場所、直射日光が当たる場所などにCD-ROM付きコンピュータを設置しないでください。
- ・ CD-ROMドライブ内部の結露を防止するため、コンピュータを温度変化の避けやすい場所に設置しないでください。CD-ROMドライブの使用中に室温が急激に変化した場合は、少なくとも1時間は電源を切らないでください。また、この場合すぐにCD-ROMドライブを操作すると、データを読んでいるときに、正常に動作しないことがあります。
- ・ CDを落としたり、CDに衝撃をあてたりしないでください。
- ・ CD-ROMドライブの周辺に液体をこぼしたときは、すぐにコンピュータの電源を切り、コンパック販売特約店、またはコンパック正規保守サービス会社に連絡ください。

## CD-ROMドライブの仕様

ディスク部	
対応ディスク	
CD-ROM	Mode 1 および Mode 2
CD-DA	オーディオ
CD-XA	Mode 2 および Form 1、2
フォトCD	シングルおよびマルチセッション
ブロックサイズ	
CD-ROM Mode 1	2352、2048、1024バイト
CD-ROM Mode 2	2352、2340、2336、512バイト
CD-DA	2352バイト
CD-XA	2646、2352、2048バイト
センターホール	直径 15mm
直径	12cm、8cm
回転速度	2120 ~ 800rpm
厚さ	1.2mm
トラックピッチ	1.6 $\mu$ m
レーザー部	
ビーム分散角	53.5° ± 1.5°
出力	0.14mW
タイプ	半導体レーザー-GaAlAs
波長	780nm ± 25nm

CD-ROMドライブ	
<b>アクセス タイム</b>	
ランダム	275ms 以下
フルストローク	600ms 以下
<b>オーディオ出力 (最大値)</b>	
ラインアウト	0.8 V <sub>RMS</sub> (47kΩ時)
ヘッドホン	0.6 V <sub>RMS</sub> (32Ω時) (最大ボリューム)
<b>キャッシュ バッファ</b>	256 KB
<b>データ転送レート</b>	
持続時	150KB/秒(標準速) 600KB/秒(4倍速)
非同期	4.0MB/秒
<b>エラー レート</b>	
ソフトエラー	10 <sup>-9</sup>
ハードエラー	10 <sup>-12</sup>
シークエラー	10 <sup>-6</sup>
<b>インタフェース ケーブル長(最大)</b>	45cm
<b>信頼性</b>	
リードエラー レート (リトライを含む)	パワーオン時間30,000POHあたり平均故障 時間25% 平均修復時間30分 動作寿命5年
<b>スタートアップ タイム</b>	7秒未満
<b>ストップ タイム</b>	2秒未満

物理的特長	
<b>寸法</b>	
幅	14.60cm
高さ	4.25cm
奥行き	20.90cm
<b>重量</b>	0.90kg

### ヒント

CD-ROMドライブは、あらかじめDドライブとして設定されています。

### ヒント

#### CD-ROMドライブの接続

CD-ROMドライブは、システムのデータ ケーブル、オーディオ ケーブル、電源 ケーブルに接続します。データ ケーブルはIDEインタフェースの規格に準拠しています。以下にコネクタのピン配置を示します。

データ ケーブルの40ピンコネクタ			
ピン	信号	ピン	信号
1	-RESET	21	DMARQ
2	GND	22	GND
3	DD7	23	-DIOW
4	DD8	24	GND
5	DD6	25	-DIOR
6	DD9	26	GND
7	DD5	27	IORDY
8	DD10	28	CSEL
9	DD4	29	-DMACK
10	DD11	30	GND
11	DD3	31	INTRQ
12	DD12	32	-IOCS16
13	DD2	33	DA1
14	DD13	34	-PDIA6
15	DD1	35	DA0
16	DD14	36	DA2
17	DD0	37	-CS1FX
18	DD15	38	-CS3FX
19	GND	39	-DASP
20	(KEY)	40	GND



## CD-ROMジャンパの設定

IDE CD-ROMドライブは、プライマリドライブ、セカンダリドライブ、またはケーブルセレクトドライブとしてシステムに接続することができます。工場出荷時は、CD-ROMドライブがケーブルセレクトドライブとして設定されているので変更しないでください。

## オーディオの仕様

### MIDI/ゲームポート (ジョイスティック)

コネクタJ13			
ピン	信号	ピン	信号
1	+5V	9	+5V
2	Joystick 1/Fire 1	10	Joystick 2 Fire 1
3	Joystick 1X	11	Joystick 2X
4	Ground	12	MIDI OUT
5	Ground	13	Joystick 2Y
6	Joystick 1Y	14	Joystick 2 Fire 2
7	Joystick 1 Fire 2	15	MIDI IN
8	+5V		

## I/Oアドレス

オーディオインタフェースは、220H、240H、260H、および280Hから始まる、20の連続したベースI/Oアドレスを使用します。デフォルトの設定は、220Hから233Hの範囲を使用する220Hに設定されています。アドレスの設定は、[コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティで行うことができます。

## 割り込みライン

割り込みラインは、2、5(デフォルト)、7、および10の4つの中から選択することができます。使用する割り込みラインによって、ジャンパを設定してください。ラインの設定は、[コンピュータのセットアップ(SETUP)]ユーティリティで行うことができます。

## ヒント

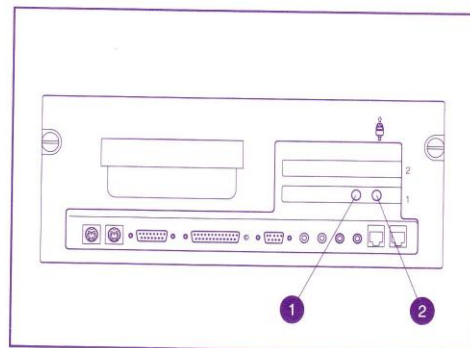
音楽CDやプログラムCDを使用するには、CDに含まれている情報の一部をハードディスクにインストールする必要があります。この作業を「CDの登録」といいます。詳しくは、コンピュータに付属の「CD-ROMの使い方」を参照してください。

## TVチューナボード

ここでは、Compaq Presario 500シリーズのTVモデルにプリインストールされているTVチューナボードについて説明します。

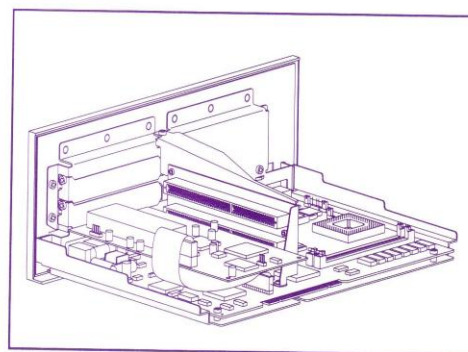
## 位置

TVチューナボードは下側の拡張スロットにプリインストールされています。次の図は、外部コネクタとTVチューナボードを示しています。



ビデオ入力およびアンテナコネクタ

TVチューナボードのコネクタ	
番号	コネクタ
①	ビデオ入力
②	アンテナ入力



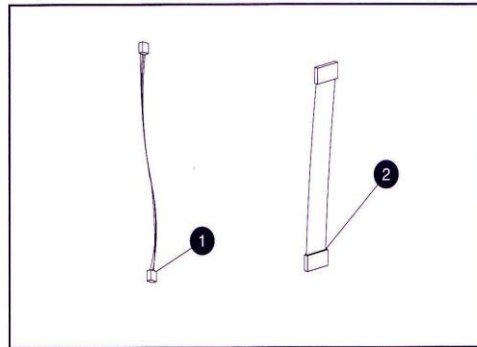
TVチューナボードがインストールされているシステムボード

## ヒント

コンピュータでテレビ番組を見るには、コンピュータに付属の「TV機能の使い方」を参照してください。

## ヒント

TVチューナボードは、4ピン①および26ピン②のケーブルで、システムボードのジャンパに接続されています。4ピンのケーブルは、TVチューナボードのJ1コネクタとシステムボードのジャンパJ16を接続します。26ピンのケーブルは、TVチューナボードのJ7コネクタとシステムボードのジャンパJ8を接続します。



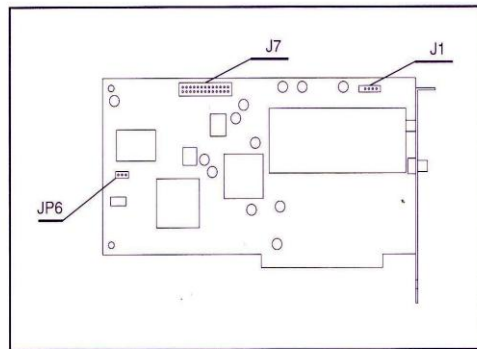
ケーブル

### TV機能の使用法

コンピュータに内蔵されているTV機能を使用するには、コンピュータの電源を入れて、TabWorksの[MediaPilot]タブをクリックします。[TV]のアイコンをダブルクリックして、プリインストールされているソフトウェアを実行してください。

### ジャンパの設定

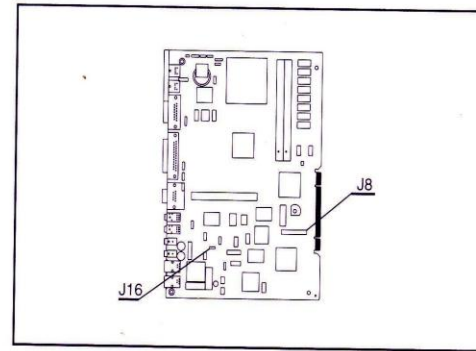
TVチューナボードとコンピュータのシステムボードのジャンパは、工場出荷時に設定されています。次の図はTVチューナボードのコネクタとシステムボードのジャンパの位置を示しています。設定について詳しくは、次の表を参照してください。



TVチューナボード側のコネクタ

## ヒント

コンピュータにTVチューナが内蔵されている場合は、コンピュータにビデオデッキ、ビデオカメラ、またはレーザーディスクプレーヤなどを接続して、ビデオやレーザーディスクを見ることができます。詳しくは、コンピュータに付属の「TVユーザズガイド」を参照してください。



システムボードのジャンパ設定

### オーディオコネクタ

コネクタJ1(TVチューナボード)とJ16(システムボード)	
ピン	信号
1	オーディオ(左)
2	キー
3	グラウンド
4	オーディオ(右)

### TVチューナボードのI/Oアドレス

ジャンパJP6	
ピン	I/Oアドレス
1-2	B18/B19
2-3	B28/B29

## 運搬するには

コンピュータを運搬する場合は、次の手順で行います。

1. ハードディスク内のファイルのバックアップを、外付けのハードディスクドライブやテープカートリッジ、ディスクなどにとります。バックアップをとったテープカートリッジやディスクは、保管中または運搬中に、電気や磁気の影響を受けないよう気を付けてください。
2. ディスクドライブに入っているディスクを取り出します。
3. 本体と外部装置の電源を切ります。
4. ACコンセントから電源コードを抜き取り、次に本体からも抜き取ります。
5. プリンタなど、すべての外部装置の電源を抜いてからコンピュータに接続されているケーブルを取り外します。

**重要:**すべてのボードがスロットにしっかりとはめ込まれていて、ネジがしっかりと留まっていることを確認します。

6. お買い上げのときにコンピュータが入っていた箱か、同等の箱に保護材を十分に詰め、本体とキーボードやマウスなどの外部システム装置を入れて梱包します。

**重要:**運搬中の環境条件については、「仕様」の「非動作時」の項目を参照してください。

## ヒント

コンピュータの電源を切ると、ハードディスクドライブは自動的にロックされます。

## ヒント

プレサリオサポートセンターへの連絡方法は、コンピュータに付属の「トラブルシューティング」を参照してください。

## 静電気対策

人間の指など、導体からの静電気の放電によって、システムボードなどのデバイスが損傷したり、耐用年数が短くなることがあります。

静電気による損傷を防ぐには、以下のことを守ってください。

- ・ 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けまます。
- ・ 静電気に弱い部品は、静電気防止措置が行われている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- ・ 部品をケースから取り出す前に、まずケースごと、アースされている面に置きます。
- ・ ビン、リード線、回路には触れないようにします。
- ・ 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、つねに自分の身体に対して適切なアースを行います。

## アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうちの1つ以上の方法を使ってアースを行ってください。

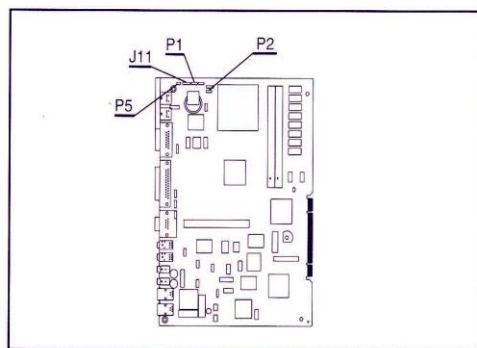
- ・ すでにアースされているコンピュータ本体にアースバンドをつなぎます。アースバンドは柔軟な帯状のもので、アースコード内の抵抗は、 $1M\Omega \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アースバンドは肌に密着させてください。
- ・ 立って作業する場合には、かかとやつま先にアースバンドをつけます。導電性または静電気拡散性の床の場合には、両足にアースバンドをつけます。
- ・ 作業用具は導電性のものを使用します。
- ・ 折りたたみ式の静電気防止マットがついた、携帯式の作業用具もあります。

**重要:**上記のような、適切にアースを行うための器具がないときは、コンパック販売特約店またはコンパック正規保守サービス会社にお問い合わせください。

## ジャンパの設定

### ジャンパの設定 - 486ベース システム ボード

システム ボードのジャンパは、工場出荷時に、最も一般的なコンフィギュレーションに設定されています。ここでは、工場出荷時のジャンパの設定と、プロセッサをアップグレードする場合に必要なジャンパ設定のための情報を提供します。



Compaq Presario 500シリーズ パーソナル コンピュータのジャンパの位置

#### ジャンパの設定

<b>P1</b>	スピードの選択	1-2ピン 25MHz (50) 2-3ピン 33MHz (66)
<b>P2</b>	SXプロセッサの選択	1-2ピン 486SX 2-3ピン 486SX以外
<b>P5</b>	CMOSの消去	ジャンパP5を取り外して、再び取り付けるとCMOSの設定とパスワードを消去できます。
<b>J11</b>	交換用バッテリー コネクタ	接続できるのは、コンパックの交換用バッテリーだけです。

## ヒント

## ヒント

コンピュータには、省電力機能が搭載されています。詳しくは、コンピュータに付属の「ソフトウェアリファレンス」を参照してください。

## 仕様

ここでは、Compaq Presario 500シリーズと付属ハードウェアの物理的な仕様と性能の仕様を示します。付属ハードウェアには、キーボード、マウス、ハードディスクが含まれます。また、コンピュータのリアパネルのインタフェースについても説明します。

#### Compaq Presario 500シリーズ 本体

<b>寸法</b>		
高さ	42.2cm	
奥行き	39.8cm	
幅	35.6cm	
<b>重量</b>		
	19.55kg	
<b>動作保証温度</b>		
動作時	10 ~ 35°C	
非動作時	-20 ~ 60°C	
<b>電源</b>		
動作保証電圧範囲	90 ~ 264VAC	90 ~ 264VAC
定格電流	3A (115V時)	1.5A (230V時)
定格電圧	100~120VAC	220~240VAC
定格周波数	47 ~ 63Hz	47 ~ 63Hz
<b>CPUトレイ</b>		
出力	+5V 2A +12V 250A -12V 75mA -5V 75mA 145W パワー サプライ モニタ 85W CPU 59W +5 V 9A 継続 +12V 1.5A 継続 (3Aサージ) -12V 200mA -5V 200mA	

ハードディスク ドライブ	
容量	420MB
フォーマット時容量	
物理容量(MB)	421.9
論理容量(MB)	421.9
コンパクト製品番号	172774-001
ドライブ タイプ	65
転送レート(最大)	
媒体 (Mビット/秒)	27.9
インタフェース(MB/秒)	13.0
シーク タイム(整定時間を含む)	
1トラック (ms)	5.0
平均 (ms)	14.0
フルストローク(ms)	28.0
ディスク回転速度 (RPM)	3600
シリンダ数	
物理シリンダ	2518
論理シリンダ	1010
ヘッド数	
物理ヘッド数	4
論理ヘッド数	16
セクタ/トラック	
物理セクタ数	55-104
論理セクタ数	51
バッファサイズ (KB)	96

### ヒント

### ヒント

ディスク ドライブ			
	高密度	高密度	倍密度
ディスク サイズ	3.5インチ 1.44MB	3.5インチ 1.2MB	3.5インチ 720KB
ドライブ ランプ	緑	緑	緑
高さ (ハイト)	1/3	1/3	1/3
バイト / セクタ	512	512/1024	512
セクタ / トラック	18	15/8	9
トラック / サイド	80	80/77	80
ヘッド数	2	2	2
平均アクセス時間 (ms)			
トラック間	3	3/6	3
平均	94	94/174	94
整定時間	15	15	15
平均回転待ち時間	100	100	100

### マウス

寸法	
高さ	3.1cm
長さ	10cm
幅	5.6cm
重量	85g (ケーブルを除く)
基本分解能	400DPI
トラッキング速度	最大25cm/秒
耐久性	
機構部	480キロメートル以上
スイッチ	100万回以上
温度	
動作時	0~40℃
非動作時	-20~60℃
相対湿度	10%~90% (結露しないこと)
静電気放電	6kVでソフトエラーなし 8kVでハードエラーなし (具体的な数値はシステムによる)



マイク	
エレメントタイプ	バック エレクトレット コンデンサ
感度	-55dB $\pm$ 3dB (1kHz (0dB = 1V/ $\mu$ bar), $R_L = 2k\Omega$ , $V_{\mu} = 4.5V$ )
インピーダンス	1.6k $\Omega$ $\pm$ 30% 1kHz ( $R_L = 2k\Omega$ )
S/N 比	50dB 以上 1kHz (1 $\mu$ bar, Aカーブ)
最大入力レベル	110dB S.P.L.


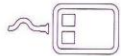
スピーカ	
再生周波数帯域	150Hz ~ 13KHz
出力音圧レベル	77.5 $\pm$ 3dB/0.9v/4cm
共振周波数	180Hz
インピーダンス	8.0 $\Omega$
定格出力	1W RMS

### ヒント

コンピュータには、マイク、スピーカ、および全二重のスピーカフォンが内蔵されています。これらの装置や、インストール済みの[Phoneセンター]ソフトウェアを使用すると、電話機を使わずにコンピュータで通話できます。詳しくは、コンピュータに付属の「留守番電話機能の使い方」を参照してください。

### ヒント



キーボード インタフェース			
コネクタ	アイコン	ピン	信号
		1	データ
		2	未使用
		3	グラウンド
		4	+5 VDC
		5	クロック
		6	未使用

ポインティング デバイス(マウス) インタフェース			
コネクタ	アイコン	ピン	信号
		1	データ
		2	未使用
		3	グラウンド
		4	+5 VDC
		5	クロック
		6	未使用

シリアル ポート			
コネクタ	アイコン	ピン	信号
		1	キャリア検出
		2	受信データ
		3	送信データ
		4	データ 端末レディ
		5	グラウンド
		6	データ セット レディ
		7	送信要求
		8	送信可
		9	リング インジケータ

エプソン MJ-800C 接続

パラレルポート

コネクタ	アイコン	ピン	信号
		1	ストロープ
		2	データ ビット 0
		3	データ ビット 1
		4	データ ビット 2
		5	データ ビット 3
		6	データ ビット 4
		7	データ ビット 5
		8	データ ビット 6
		9	データ ビット 7
		10	アクノリッジ
		11	ビジー
		12	用紙切れ
		13	セレクト
		14	自動ラインフィード
		15	エラー
		16	プリンタ イニシャライズ
		17	セレクト イン
		18~25	グラウンド



ヒント

パラレルポートは、主にプリンタへの出力用として使われます。詳しくは、コンピュータに付属の「プリンタの使い方」を参照してください。

MIDI/ゲームポート (ジョイスティック)

コネクタ	アイコン	コネクタ
		Dsub15ピン (2列)

マイク コネクタ



コネクタ	アイコン	コネクタ
		ステレオ ミニジャック (1/8インチ ミニホン)

ヘッドフォン コネクタ



コネクタ	アイコン	コネクタ
		ステレオ ミニジャック (1/8インチ ミニホン)

ヒント

ラインアウト

コネクタ	アイコン	コネクタ
		ステレオ ミニジャック (1/8インチ ミニホン)


ラインイン

コネクタ	アイコン	コネクタ
		ステレオ ミニジャック (1/8インチ ミニホン)

電話機インタフェース

コネクタ	アイコン	ピン	信号
		1	未使用
		2	未使用
		3	Tip
		4	Ring
		5	未使用
		6	未使用

電話回線インタフェース

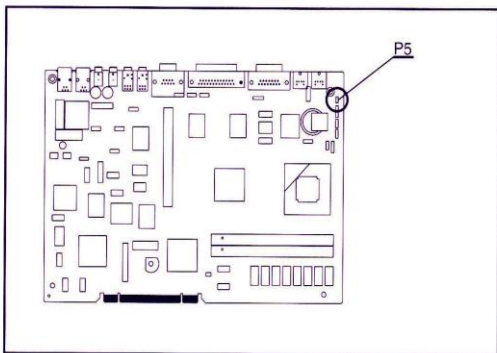
コネクタ	アイコン	ピン	信号
		1	未使用
		2	TV
		3	Tip
		4	Ring
		5	RV
		6	未使用

96.4.22.  
IN SX1A-1 DSU の TEL2 ジャック 接続

## パスワードを忘れてしまった場合

コンピュータのセキュリティ機能でパスワードを設定することによって、パスワードを入力しなければコンピュータを使用できないようにすることができます。セキュリティ管理のために、パスワードを知らなければパスワードの変更や削除ができないようになっています。パスワードを忘れてしまった場合は、コンピュータのシステムボードを出して、メモリをクリアする必要があります。コンパック販売特約店、またはコンパック正規保守サービス会社に連絡するか、本体のカバーを開き、システムボードのジャンパをいったん外してください。手順は次の通りです。

1. このガイドの「システムトレイの取り出し方」に書かれた手順に従ってシステムトレイを取り外します。
2. システムボード（メインロジックボード）上のジャンパP5を取り外し、約60秒間待ちます。



ジャンパP5の位置

3. ジャンパを元の位置に取り付け、システムトレイを取り付けます。
4. プリンタなどの外部装置（もしあれば）を取り付け、アースされたACコンセントに電源コードを接続します。
5. コンピュータの電源を入れます。このとき、システムはパスワードを要求しません。

この操作によって、セキュリティ機能ユーティリティで設定した内容は削除されます。たとえば、ディスクドライブを使用できないようにしている場合などは、その設定が無効になります。

## ヒント

このコンピュータには、セキュリティ機能が搭載されています。詳しくは、コンピュータに付属の「ソフトウェアリファレンス」を参照してください。

## DIAGNOSTICS（診断）ユーティリティの再インストールについて

DIAGNOSTICS（診断）ユーティリティを再インストールする場合は、同梱されているバックアップCDで作成したディスクットではなく、以下の手順で作成したディスクットをご使用ください。

**注：**バックアップCDで作成したディスクットを使用すると、コンピュータ本体に内蔵されているCD-ROMドライブのタイプによっては、DIAGNOSTICS（診断）ユーティリティの起動時にエラーメッセージが表示される場合があります。

1. 3.5インチ2HDの空のディスクットを2枚用意します。
2. コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合は、MS-DOSの画面で **Ctrl** キーと **Alt** キーを押しなが **Delete** キーを押して再起動します。
3. カーソルが画面右上隅に移動したらすぐに **F10** キーを押します（電源投入時のセルフテストが終了するとビープ音が2回鳴り、カーソルが移動します。このときに **F10** キーをすばやく押ししてください）。
4. メッセージが表示されたら **Enter** キーを押します。
5. 「DIAGNOSTICS（診断）」画面が表示されたら、「DIAGNOSTICS（診断）ディスクットの作成」を選択します。
6. 画面の説明に従って、ディスクットを作成します。

© 1995コンパック株式会社

初版 1995年6月

210295-191

